

令和6年度 学校総合評価

6 今年度の重点課題に対する総合評価

本校では、「共通科目・専門教科（商業）教育」「部活動」「地域協働」等あらゆる機会を通して人格の形成を目指しながら、地域社会や職場に貢献できる実践的な逞しい生徒の育成を図っている。本年度も、5項目の重点課題を挙げて、全教職員で共通理解を図りながら取り組んだ。

- (1) 「学習活動1」では、今年度は新学習指導要領の全面実施3年目を迎え、先生方が「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業準備・運営に多くの時間と労力を掛けたことで、授業内容の理解度が昨年度を上回る値で目標値を超えた。しかしながら、「学習ふりかえりシート」の理解度の到達目標の設定がやや曖昧な部分がみられることから、理解度の到達目標を各教科の「学習指導要領」で示される目標に準拠した明確な設定を行う取り組みが必要である。
- (2) 「学習活動2」では、1、2学年の小学科の基礎科目・重点科目の授業内容の理解度が目標の値を超えている。これは新学習指導要領の趣旨を活かした授業実践と共に、授業内容の理解度調査を実施して教員が振り返りを行い効果的な指導方法の研究による授業改善など、先生方が生徒の実態に合わせた取り組みの成果だと言える。また、後輩への資格取得指導などの取り組みは、良き校風としてそのような習慣を継続し推進していきたい。
- (3) 「学校生活」では、自転車に関わる防犯指導から余裕を持った行動や安全運転意識を高める取り組みの効果がでているものの、まだ改善の余地がある。また、保護者、地域、警察等との連携を深め協力を得ることにより、登下校時の自転車事故の減少やスマートフォン、SNSの利用マナーの向上に結びつくよう生徒の意識の向上に努めていく必要がある。
- (4) 「進路支援」では、1、2学年に対する進路支援を実施する時間は、概ね達成できた。また、生徒の学力や価値観が多様化する中で、3学年の進路に対する満足度が目標を超えることができた。3年間を見通した系統的な進路指導の充実を目的として、学年に応じた段階的な進路学習の目標を設定し、生徒が職業や進学先について自己理解を深め、適性を知り進路を決める時期の早期化を図っていききたい。
- (5) 「特別活動」では、部活動を通して競技力の向上と豊かな心の成長を感じられる生徒の割合が目標を上回った。部活動での学びを社会に出た際の在り方や生き方と結びつけて理解させ、これからの時代に求められる資質・能力を身に付けられるよう指導していききたい。

7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) 商業教育は、従来の「簿記・会計」、「マーケティング」、「情報処理」などの基礎的なスキルを教えることに加え、コミュニケーション能力の一層の向上を図り、論理的思考能力を身に付けた、デジタル化・AIの進展に対応できる人材の育成へとシフトしていく必要がある。
- (2) 「課題研究」「模擬株式会社りゅうりゅう」の活動は、PBL(問題発見・解決型学習)として、商業高校で学んだことを活かして正解のない課題に取り組みながら考え抜く力の育成と、社会に有意な人材の育成に繋がっており、地域協働、地域連携を一層推進させていきたい。
- (3) 令和6年度からスクールポリシーを今までのものより具体的な表現とし生徒、保護者、関係者に分かりやすいものに変更した。本校の育成を目指す資質・能力(グラデュエーション・ポリシー)についてその達成度合いを測定・評価し、改善に結びつくよう取り組んでいきたい。

(様式5)

8 今年度の重点課題 (学校アクションプラン)

令和6年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動1 (教科指導)	
重点課題	資質・能力の育成を目指す主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業実践	
現 状	生徒の興味・関心や学習に対する意識、学力などが多様化しており、学習への取り組み方や理解度、定着状況に差が表れている。一方、社会が求める人物像や新しい学力観に向け、生徒が主体的・対話的に学び、自ら学習を深めるための授業実践を推進することで、学習意欲を高め、学力を定着させることが必要である。	
達成目標	校内研修 (研究授業、互見授業) ベテラン教師 (若手教員、年次研修者以外) の授業を参観した回数 若手教員、年次研修者の研究授業の参観 または、研究協議に参加した回数	授業内容の理解度 (主体的に取り組む態度の喚起) 「学習ふりかえりシート」を活用し、 理解度を自覚させ、意欲的な学習活動 につなげる。
	計3回以上	80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・年2回の校内研修期間を設定し、ベテラン教師からも若手からも互いに学びあえるよう可能な範囲 (通年で全教職員対象) で「主体的・対話的で深い学び」に向けた研究授業や互見授業を実施する。見学者からは率直な意見や感想が得られるよう「見学カード」を工夫するなどして、授業改善に役立てる。また、若手教員、年次研修者へは、研究協議を実施し授業改善につなげる。・学習意欲を喚起させるため、年5回の定期考査前に教務通信「Study Navi」を生徒に配布し、意欲的に取り組めるよう学習計画を立案させる。・1、2学期末に「学習ふりかえり WEEK」を設定し、「学習ふりかえりシート」を用いて学習に対する意識や理解度など、生徒自身が学習活動をふりかえる時間を確保する。また、生徒の主体的に取り組む姿勢を改善させるための契機とする。・「見学カード」の内容や「学習ふりかえりシート」の分析結果について教科や学年で話し合い、指導法の研究や生徒の学習意欲の喚起など、授業改善と理解度の向上を図る。	
達成度	2. 28回	全体98.5%(2学期)
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none">・校内研修期間として、5月と10月の2回を設定した。1回目は先輩教師の授業を参観し、2回目は若手教師の指導力向上を目指し、教師の指導力向上と共に、分かる授業、主体的に取り組める授業研究を目的とした。また、若手教師の研究授業後に事後研修を実施し、生徒の反応を中心に協議を行った。・教務通信「Study Navi」では、学習意欲の向上を図る目的で、裏面に考査前の学習計画表を載せるなど、その時期や学年に応じた内容になるようにした。・各学期末の「学習ふりかえり WEEK」では、生徒が「学習ふりかえりシート」に自分の学習活動に対する振り返りと授業評価を行った。また、本年は、主体的に学習に取り組めるよう座学中心科目全般と実技科目 (情報・体育) に分けて「学習ふりかえりシート」を作成し、授業への工夫、改善に努めた。・教室環境や連絡を聞く姿勢も主体的に学ぶ意欲に関係すると考え、事前の計画にはなかったが、教職員研修として3学期にSTと清掃について、担任が独自で行ってきたことを互見する機会を設けた。	
評 価	B	生徒の自己評価は目標を上回ったが、教職員の校内研修参加回数は目標を下回る結果となった。
学校関係 者の意見	<ul style="list-style-type: none">・今年度は新学習指導要領の全面実施3年目を迎え、先生方が、担当科目の中で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業準備・運営に多くの時間と労力を掛けたことで、授業内容の理解度が、昨年度を上回る値で目標値を超えており、先生方のご努力に敬意を表します。	
次年度に 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none">・校内研修の実施回数が目標を下回り、事後研修への参加人数もかなり少なかった。参観した先生方が意見を書きやすいように昨年より記入しやすい見学カードを作成したが、参観しても記入していただけない先生が多数であった。互いに学ぶ事と共に、若手教師へのスキルの継承をする雰囲気作りが必要である。	

(評価基準 A: 達成できた B: ほぼ達成できた C: 達成できなかった)

(様式5)

8 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和6年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 2 -		
重点項目	学習活動2（検定指導）	
重点課題	小学科における重点科目の学習理解度の向上と資格取得	
現 状	商業科目の各専門分野に関する基礎的・基本的な知識、技術及び技能の定着を図ることを指導目標としている。小学科ごとに重点科目を設け、学習理解の到達度を確認するとともに、全国商業高等学校協会主催の資格取得目標を掲げることにより、学習理解到達度の向上や資格取得による生徒の満足度を高めるようにしている。	
達成目標	1、2学年は小学科の基礎科目、重点科目の授業内容の理解度 流通ビジネス科：ビジネス基礎・マーケティング 国際ビジネス科：簿記・ビジネスマネジメント 会計ビジネス科：簿記・財務会計Ⅰ 情報ビジネス科：情報処理・ソフトウェア活用	3学年は3年間を通して全商主催検定1級の合格数
	90%以上	3学年：350以上
方 策	・生徒に各学科の教育目標、重点科目、取得資格目標検定について説明を行い、生徒の学習意欲を引き出す指導方法を工夫する。 ・生徒の資格取得状況より、さらに上位の資格取得に向けての具体的方策や改善点について協議する。 ・教員が各学科の取得目標とする検定の学習内容の研究を深め、教員間でより効果的な指導方法について意見交換を行う。	
達成度	1学年 97.4% 2学年 97.9%	3学年 300
具体的な取組状況	・生徒たちに各学科の学習内容や重点科目、実践的活動や目標とする検定について、各学科で学科集会を実施し説明を行った。加えて学習や進路について3学年に体験談を話してもらうなどした結果、学習意欲や課題の明確化、進路意識の向上、学科間の縦の連携を図ることができた。会計ビジネス科においては、昨年度同様に上級生が下級生に対しマンツーマンで検定指導をする授業を展開した。 ・検定取得に向けて重点期間を設定し、時間割を工夫するとともに朝学習や放課後補習を実施した。また、自由に使用できる検定対策プリントを各階に置くことで、積極的に問題演習に取り組む姿勢が見られた。 ・1、2学年は小学科の基礎科目、重点科目の授業内容に関しての理解度調査を実施した。教員にとっても日ごろの授業の指導内容を振り返る機会となり、より効果的な指導方法を研究するなど授業改善に努めた。	
評 価	B	1、2学年の多くの生徒が小学科の基礎科目、重点科目の授業内容について理解している。3学年は目標値を達成することができなかったが、全商主催検定以外の資格に積極的に挑戦し、成果をあげた。資格の取得だけでなく、理解した内容を後輩たちに伝える機会を設けたことで、プレゼンテーション能力が向上し、進路決定における面接試験でもその力を発揮した。
学校関係者の意見	・1、2学年の小学科の基礎科目、重点科目の授業内容の理解度が目標の値を超えています。これは先生方の新学習指導要領の趣旨を活かした授業実践と共に、それらの科目の授業内容の理解度調査を実施して、教員が授業内容を振り返り、より効果的な指導方法を研究し授業改善を行うなど、先生方の日頃の熱心な指導の成果だと思えます。	
次年度に向けての課題	・生徒が主体的に学べるような授業展開を工夫することで、理解不足の生徒には個別指導等による継続的な指導を徹底し、学習意欲を高める必要がある。 ・各種検定試験は、以前より思考力、判断力を求める問題が多く、社会で求められる能力について指導者も理解を深め、指導力の向上を図る必要がある。また、社会的認知度の高い日商簿記検定やITパスポートなどの合格を目指す生徒が増えてきており、教員がその指導力を一層向上させていかなければならない。	

(評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：達成できなかった)

(様式5)

8 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和6年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 3 -		
重点項目	学校生活(生徒指導)	
重点課題	基本的な生活習慣(スケジュール管理含)の確立と防犯意識の向上	
現 状	自転車の施錠忘れによる盗難が高岡駅で頻発しており、本校校内でも事案が発生している。他の高岡地区の高校でも自転車盗難が多くなっているという報告があり、盗難に遭った生徒の殆どが、無施錠である。その主な理由として、急いでいて鍵をかける「時間がない」というものである。令和5年度では、月例登校指導(1日、15日)にて、自転車の鍵かけを呼びかけるとともに無施錠自転車をチェックし注意喚起を行った。年間を通じ、校内で延べ66台の無施錠自転車があった。	
達成目標	自転車施錠率	
	年間を通じて99%以上(月2回確認)	
方 策	・基本的な生活習慣を見直すとともに、スケジュールや時間管理を行い、余裕を持った行動を心がけるよう指導していくことで、うっかりミスや忘れものの減少を図る。 ・月例の交通安全指導(1日、15日)と同時に自転車の施錠点検を行い、盗難防止の意識向上に向け注意喚起や指導を行う。 ・「カギかけコンテスト」を実施することで施錠(防犯)意識を高める。	
達成度	全体 98.7%	9月 5日 98.8 (5台)
	5月 15日 97.8 (9台)	9月 17日 98.8 (5台)
	5月 31日 <u>99</u> (※達成) (4台)	10月 1日 <u>99</u> (※達成) (4台)
	6月 13日 98.8 (5台)	11月 1日 <u>99.5</u> (※達成) (2台)
	7月 4日 98.8 (5台)	11月 15日 97.8 (9台)
具体的な取組状況	・月例の交通安全指導(1日、15日)と同時に自転車の施錠点検を自律委員会、サイクル安全リーダーで行った。無施錠の自転車所有者は『鍵を掛ける時間がなかった』という理由がほとんどのため、時間的余裕をもった生活と施錠意識を高めるよう啓発を行った。(12月以降は降雪期に入るため、自転車乗車がなく実施していない。) ・また、警察による『鍵かけ防犯コンテスト』が6月12日に抜き打ちで行われ、その結果、98.5%の鍵掛け率ということで、表彰をいただいた。	
評 価	B	年間を通じて99%以上という目標に対し、達成できたのは3回のみであった。
学校関係者の意見	・無施錠者個人へ啓蒙すると共に、高校公式の SNS やポスターの掲示等を利用して、施錠意識改善をPR(例えば、施錠で自転車盗難のリスクは低下する、施錠しないことで経済的損失に繋がる、高校は私的空間で無く自転車盗難への危機意識が必要等)していくことが望ましい。比較的短時間で実施でき、日常的に不特定多数の生徒に繰り返し目に入りにすることで、印象に残りやすいという効果が期待されるので、さらに検討されるようお願いしたい。	
次年度に向けての課題	・自転車に関連することとして、無施錠、ヘルメット、乗車中スマホの罰則、パンク等の問題と生徒指導上、気をつけなければならない項目が多岐にわたる。それに反して無施錠、事故の件数からも、生徒の自転車の安全管理に対する意識が薄くなっていることを実感している。担任や学年に呼びかけるとともに、自動車学校などと連携し研修等も検討していきたい。	

(評価基準 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:達成できなかった)

(様式5)

8 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和6年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 4 -		
重点項目	進路支援（進路指導）	
重点課題	1学年次から3学年次まで3年間を見通した進路指導計画の立案	
現 状	進路指導部では、進路希望調査や進路ガイダンスの実施、過年度生の資料をまとめた『進路の研究』の作成・配布を行っている。またクラス担任は、新年度スタート時や次年度の科目登録の前に個人面談を実施し、将来の進路について生徒に考える機会を設けている。しかし本校の生徒は自らの進路を意識する時期が遅く、3年生になる直前でようやく真剣に進路選択を始める生徒が多い。それぞれが一過性のイベントで終わっていること、「進路選択」という全体の流れの中でのそれぞれの位置づけや役割が、生徒にも教員にも明確になっていないことが一因であると考えられる。入学から卒業まで、3年間を視野に入れたバランスのとれた進路指導計画が必要である。	
達成目標	1、2学年 学年・クラスで実施する進路学習の時間	3学年 進路に対する満足度 (就職内定企業・進学予定校)
	各学年 7月3時間以上 3月3時間以上	3学年：95%以上
方 策	・1学年では職業観の育成を目標に、2学年では個々の進路目標の具体化を目標に、7月と3月の特別編成授業の期間を中心に進路学習の時間を計画する。実施の際には、進路指導計画全体における当該行事の位置づけ・その後の見通しが、生徒にも教員にも明確になるように工夫する。また中学校からのキャリアパスポートとの接続を図り高校でのキャリアパスポートとして記録に残していく。 ・3学年は、個々の進路目標の達成が重要となるため、就職者、進学者、それぞれの希望に合ったガイダンス・特別講座等を計画する。就職内定先・進学予定校が決定した時点で、アンケート等により実態把握と意識調査を行う。	
達成度	4-7月 1学年3時間 2学年3時間 2-3月 1学年4時間 2学年3時間	3学年 進路に対する満足 就職 100% 進学99.2%
具体的な 取組状況	・1学年：4月に宿泊学習の中で職業についてのワークショップ2時間、キャリアパスポートについての説明1時間、3月に進路ガイダンス2時間、キャリアパスポートのまとめ2時間を実施した。 ・2学年：7月に進路ガイダンス2時間を実施し、クラスで進路学習を1時間実施した。また、3月には進路別ガイダンス3時間を実施した。 ・3学年：進学希望者対象に外部講師を招聘し小論文講座2時間実施 全員を対象とした企業説明会を実施（高岡市役所との合同開催、3社参加） 就職希望者は応募前職場見学を3社以上行った。 ・各学科集会で3学年進路決定者から1、2学年が話を聞く時間を設けた。	
評 価	B	3年間を視野に入れた進路学習の機会の設定として、1、2学年の進路学習の時間をほぼ確保できたように思われる。3学年については、進路別の外部講師等の招聘を充実させたことで様々な希望進路の実現をサポートすることができたと考えている。
学校関係 者の意見	・1、2学年やクラスで実施する進路学習の時間の目標が達成でき、また、生徒の学力や価値観が多様化する中で、3学年の進路に対する満足度の達成目標が概ね100%に達したことは、先生方の熱意的な指導の成果だと思われま。	
次年度に 向けての 課 題	・進路指導部が主導して進路学習の取り組みやHRなどの時間を有効活用することが必要である。また、生徒が意欲的に取り組める外部講師講座などを増やすことも必要である。	

(評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：達成できなかった)

(様式5)

8 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和6年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 5 -	
重点項目	特別活動
重点課題	部活動の充実と競技力の向上
現 状	本校は、人格形成に必要な3つの柱の1つとして部活動を位置づけている。各部が高い目標に向かって課題を追求しながら自発的な活動を行い、スポーツ庁のガイドラインや県の方針を踏まえた部活動の在り方を検討し、合理的・効率的に工夫した練習を行っている。部活動への参加意義を明確にし、その活動を行うことにより、成就感・達成感を味わい、心の成長が感じられることを目指す。
達成目標	部活動を通して競技力の向上と豊かな心の成長を感じられる生徒の割合
	90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・部活動指導員・特別活動指導員及びテクニカルエキスパートや各部のOB等から協力を得ながら、いろいろな資源を活用し、技術指導・生活指導等を充実させる。・トレーニングハウスのトレーニング機器を有効に活用し、基礎体力の向上を図る。・スポーツ庁および県の方針に従いながら、県内外の強豪校と練習する機会を積極的に設けるなど、技能の向上を図るとともに意識の高揚に努める。・生徒が目標を持って、学校生活に取り組めるよう、生徒会と共に特別活動の充実を図る。・生徒の活動の成果をHPやSNSを通じて発信し、達成感を感じさせる活動を展開する。
達成度	90.1%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none">・生徒が部活動で自己の成長を実感できるように、HPやSNS等で活動報告と情報発信を適時に行い、各部活動の活躍を全校で共有した。・部活動指導員及び特別活動指導員、テクニカルエキスパートを活用し、各部の活動内容の充実と技術の向上を図った。・県内外の強豪校との練習試合等により、技術の向上を図るとともに意識の高揚に努めた。・トレーニング機器を有効に活用し、基礎体力の向上を図った。
評 価	A 部活動を通して、競技力や心が成長したと感じている生徒は、「大いにある」が34.6%「ある程度ある」が55.5%であった。
学校関係者の意見	・部活動を通して競技力の向上と豊かな心の成長を感じられる生徒の割合が、目標の達成度を超えており、これは生徒の熱意と先生方の取組の成果だと思われます。また、運動部も文化部も様々な大会で優れた成績を挙げておられ、活躍された生徒さんに敬意を表します。
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none">・生徒が主体の活動を推進し、「生きる力」を育み、人格の形成を図る活動を行う。・本校における部活動の在り方と中学校の部活動での取り組みの違いをしっかりと認識、理解させて活動させる。・本年度同様、スポーツ庁・文化庁のガイドラインを遵守することを一層徹底する。・部活動指導員、特別活動指導員、テクニカルエキスパートやOB等からの協力を得ながら、充実した部活動になるように工夫をしていく。

(評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：達成できなかった)